

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人大阪大学

## 1 全体評価

大阪大学は、その源流である懐徳堂と適塾以来の市民精神を継承し、世界に開かれた大学として、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとしている。第3期中期目標期間においては、新たに構築する教育研究プラットフォームにより、異分野融合による新学術領域の創成や、専門分野を超えた能動的な知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出することを目指しており、ひいてはグローバル社会の期待に応える世界屈指の研究型総合大学への進化を目指している。

この目標の達成に向け、総長のリーダーシップの下、教育研究環境のダイバーシティの向上に取り組むとともに、「組織」対「組織」の産学連携を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 新学術領域を創成する組織として「先導的学際研究機構」を設置し、学内の幅広い分野から新たな学際融合研究を目指す研究領域を選定しており、平成29年度は「生命医科学融合フロンティア研究部門」と「超次元ライフイメージング研究部門」の2部門を設置している。（ユニット「学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創造と学術研究の推進」に関する取組）
- 共創テーマ探索に参画する者を公募し、共創テーマ研究ユニットの形成を加速する取組として、大阪大学Innovation Bridge Grant「大型産学共創コンソーシアム組成支援プログラム」を新たに創設し、人文社会系・理工系・医歯薬生命系にわたる幅広い分野から新たに12チームを形成している。（ユニット「社会ニーズを先取りするオープンイノベーション創出に向けた、産学官の戦略的かつ包括的な連携の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化					○	
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			
※産業競争力強化法の規定による出資等			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成のためには遅れている

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、入学者選抜における出題ミス及び採点ミスへの組織的な対応の不備があったこと等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 産学クロス・アポイントメントの推進等による女性研究者の増加

ダイバーシティの充実による教育研究水準の一層の向上のため、総長裁量ポストや支援経費の配分等による女性研究者の積極的な採用・育成に取り組んでおり、新たに開始した民間企業等との産学クロス・アポイントメントにおいては、ダイキン工業株式会社との相互交流（派遣1名、受入1名）、サントリーホールディングス株式会社からの受入れ1名が行われている。また、女性研究者循環型育成クラスターの形成に向けて、共同研究講座、協働研究所の企業等を中心に20協力機関の参画を得て、共同研究の実施、社会人女性研究者の大学院での学び直しによる学位取得促進等を展開しており、女性研究者の在職比率が17.5%（対前年度比1.4ポイント上昇）となっている。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

### ○ 入学者選抜における出題ミス及び採点ミスへの組織的対応の不備

学部の平成29年度一般入試等において、理科（物理）に出題ミス及び採点ミスがあり、39名の追加合格を行っている。当該設問については、外部から複数回疑義を指摘されていたにも関わらず情報の共有が十分に図られなかったことから、結果として組織的な対応が大きく遅れ、受験生等へ精神面・修学面・経済面での負担を与えることとなったことから、新合格者等へ十分な支援を行うとともに、外部からの指摘への対応を含む入学者選抜実施体制及び情報共有体制の抜本的な見直し等、再発防止等に向けた取組が求められる。

### (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②広報

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②リスク管理 ③法令遵守

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載20事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## 55 大阪大学

平成 29 年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

### ○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられていたとはいえないことから、再発防止に向けた組織的な取組をさらに実施することが望まれる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 新任教員研修制度の導入

新規採用する講師・助教等を対象に、採用後3年以内に「教育能力開発」、「研究能力開発」、「社会連携能力開発」、「マネジメント能力開発」の4領域から構成される研修科目の中から計30時間受講することを義務付ける新任教員研修制度を導入している。

### ○ 包括連携契約による知・人材・資金の好循環

課題の探索段階から企業と大学が連携する「共創」型組織間連携として、共同研究に係る研究費だけでなく、国際的に活躍できる若手研究者の雇用・育成やAI・IoTに精通した人材育成のための費用も含む、情報科学分野を中心としたダイキン工業株式会社との大型包括連携契約（10年間で総額56億円）を締結している。

## 共同利用・共同研究拠点

### ○ 異種材料をインク素材とする多色刷的な3Dプリンタプロセスの構築

接合科学研究所では、造形体の内部における接合界面の観察と評価を行い、世界で初めて実用に値する寸法精度と内部組織を有するセラミック構造体の直接造形に成功し、金属を含む異種材料を用いた3Dプリンタプロセス開発の道筋を切り拓いた。

### ○ ミューオン非破壊元素分析による隕石の分類に成功

核物理研究センターでは、貴重な隕石サンプルを一切破壊せずに元素組成を測定し、世界初のミューオン非破壊元素分析による隕石の分類に成功している。この新しい手法の開発により、太陽系の歴史や生命誕生の謎に迫ることができると期待されている。なお、有機物を含む隕石の分析結果を報告した論文は、英国科学誌物理系論文トップ100に選ばれている。

## 附属病院関係

### 【医学部附属病院】

（教育・研究面）

### ○ 地域ネットワークを活用した臨床研究の活性化

関連病院との間で臨床研究に関する協定を結び、大阪臨床研究ネットワーク（OCR-net）として15病院（合計約8,400床）をセキュアなネットワークで結び、臨床研究データを効率的に収集できるシステムを構築し、地域とも連携した一体的な臨床研究の活性化を進めている。

## (運営面)

## ○ インセンティブ制度による病院経営改善

病床稼働率や入院在院日数等のKPI指標を基に診療科に予算を配分するインセンティブ制度を導入した結果、病床稼働率は86.9%（対前年度下半期比2.8ポイント増）、診療報酬請求額は平成29年度387.6億円（対前年度比14.1億円増）となり、コスト削減の取組として、市場価格分析による値引き交渉を行った結果、医薬品約8,390万円、診療材料約7,720万円を削減するなど病院経営基盤の改善に取り組んでいる。

## 【歯学部附属病院】

## (教育・研究面)

## ○ AI活用に向けた臨床研究の推進

日本電気（NEC）株式会社と共同研究契約を締結し、「医療情報の機密保護とAIを介した有効活用」を目指したソーシャル・スマートデンタルホスピタル（SSDH）プロジェクトを立ち上げ、初年度の成果報告を兼ねたシンポジウムを開催（190名が参加）しており、国内の大規模歯科病院における唯一のAI活用に向けた取組として臨床研究を推進している。

## (診療面)

## ○ 地域歯科医院との連携強化

診療時間の一部延長により、毎週約140名、年間約7,000名（対前年度比約500名増）の患者が来院し、外来患者の利便性向上、地域病院・医療施設との連携推進を進めた結果、地域歯科医院からの紹介率は前年度に引き続き年間30%を超えるなど、地域歯科医院との強固な連携が維持されている。

## (運営面)

## ○ 国際医療への対応に向けた取組

「外国人アドバイザーボード」を新たに開催し、歯科医療に関する外国人特有の考え方を知るとともに、院内表示の改善、歯学部附属病院ウェブサイトへの外国人向け情報の増加等に取り組む、国際医療にも対応できる歯学部附属病院を目指している。

産業競争力強化法の規定による出資等に関する目標の状況

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。